



皆さまには日頃より温かいご支援を戴き、心より御礼申し上げます。

さて、春の訪れを感じる季節となりました。

区議会も第1回定例会が閉会し、いよいよ、新年度のスタートが切られました。

今、我が国の政治・経済は混迷が続き、時代が行き詰まってきた感があります。

今回、幹事長として初めて行った代表質問において、この激動の時代に、時代の変革を座して待つのではなく、変革の主体者としての自覚に立ち、地方主権実現のために、尽力していかなければならないという立場で、区民の皆さまが安心して暮らしていただけるよう、政策実現に全力で取り組んでいくことをお約束させていただきました。

平成22年度 杉並区議会 第1回定例会 代表質問から

地域主権をリードする杉並らしい改革を

問い 区財政の厳しさは区民の生活の厳しさの表れである。区民の生活を守るセーフティネットをしっかりと確保する責務があると思うがどうか。

答弁 安全・安心のセーフティネットを張ることがなによりものスタート。基礎的自治体の最大の任務と考えている。

問い 「長寿応援ポイント事業」は、わが会派の主張でもあり、高齢者の生きがいと健康を増進する施策として全国初の取り組み。認知度向上策は。

答弁 ポイントに登録した活動がどこでどのように行われているのかを一覧にした冊子を年度内に作成。身近な地域でウォーキングや健康体操などの活動に気軽に参加できるように知らせていきたい。

問い 「救急情報キット」は、わが会派の提案どおり、災害弱者のための一助として実施に踏み切ることになった。活用については、どのように考えているか。

答弁 高齢者等の災害時要援護者の医療情報や災害時支援情報をキットに入れ冷蔵庫に保管してもらい、支援に役立てていく。関係機関と協議し、7月を目途に実施したい。

問い 再要望した「子宮頸がんワクチン」公費助成を行うことを決断に至った経緯を伺う。

答弁 区民の生命を守るという区の最大の責務を速やかに果たすために、全額助成の実施を決定した。

問い まちの景観や利便性はその地域のひとつのブランドであるとも言える。そのことを意識したまちづくりの整備事業を進めていくべき。

答弁 地域ごとに歴史や土地利用、駅、道路、自然などの特性に基づいて景観まちづくりの方向性を定めている。

問い 今後、小中一貫校の内容の充実を図りながら、どのように地域と協働する学校づくりを進めていくのか。

答弁 「いい学校」をつくるという姿勢で話し合いを重ね、地域の納得と共感を大切にしながら計画案づくりに努めてきた。義務教育9年間の教育活動を通して、子供・保護者・地域の関係がこれまで以上に深まり、子供たちの健やかな成長につながることを期待。

問い 減税基金条例については、減税のあり方、基金運用の基本方針の決定等、議会や区民の意思を十分に吸い上げ誠実に反映する体制をつくるべき。

答弁 基本方針・基金管理方針の策定にあたっては、議会や区民の意見を十分に踏まえ、反映していく。

問い 平成20年に「杉並百年の計」として「杉並区景観条例」を制定し、まちづくり条例の改正を行った。百年に及ぶまちづくりに向けたビジョンについて伺う。

答弁 「住宅公園都市」といった将来都市像を検討していきたい。

